

学校関係者評価

- ①本年度もコロナ禍の1年であったが児童の成長につながる行事等を創意・工夫して実施することができ児童の満足感や充実感を高めることができた。
- ②登下校の安全対策を重点化して熟議を重ね、保護者・地域住民等に広く啓発することを通して、地域の見守り活動を大きく前進させることができた。引き続き安全対策の強化を図っていきたい。
- ③地域人材を積極的に活用した授業等が構成され、地域道德に結びつく基盤を確立することができた。

保護者アンケート結果

- ①友達と仲良く、元気に楽しい学校生活を送ってほしい。
- ②しっかり学び、心のやさしい子どもに育ってほしい。
- ③心身ともに健康な明るくたくましい子どもに育ってほしい。

令和4年度学校経営総括

園部中学校ブロック教育目標

ふるさとを愛し、夢をかなえるために、
知力・心力・体力の向上を目指す
そのべっ子の育成

目指す学校像

個が輝く学校

目指す児童像

考える子 やさしい子 努力する子 たくましい子

南丹市立園部小学校

第三者評価

- ①人権教育を中心に学校全体で取組を展開し、成果を上げてこられている点が素晴らしい。
- ②子どもたちと先生方の関係が良好で学級経営や学年経営にチームとして力を尽くしておられ大きな成果をあげておられると感じる。学校の規模が大きい中で一人一人の子どもに心に寄り添い、児童理解に努めておられることが子どもたちが安心して楽しく学校生活を送っていることにつながっていることと思う。
- ③子どもの学力を向上させる共通した取組を小中で連携して具体的に展開していく必要性を感じている。
- ④地域の方々の理解と協力を得ながら様々な取組を充実させ、啓発も積極的にされていることは本校が学ぶべき所が多い。

	学 校 経 営 の 重 点	成 果	評 価	課 題	改 善 策
人権教育	・一人一人の児童の人権が大切にされ、個々の自尊感情を高める学級経営の創造 (「学級・学校が楽しい」と答える児童100%)	全学年が全て肯定的な回答を示しており、児童全体の94%を占める。教員は、学級経営に力を注ぎチームとして学年経営を構築している。児童と教員の関係は良好である。	A	「楽しくない」と回答する児童が6%ある。否定的な回答をした児童は、友人との人間関係等に理由があり、一人一人の児童理解を更に深めていく必要がある。	「学校が楽しくない」という児童個々の話を担任等がよく聴き、原因を確認しながら解決を図る。また、家庭と連携を密に取りながら継続的に支援を行っていくことが大切である。
生徒指導	・いじめ問題については個別面談等による徹底した実態把握と未然防止、早期発見、早期解決、再発防止の徹底 (面談等による聞き取りやアンケート等による実態把握といじめ解消率100%)	1学期のいじめ認知件数19件の事象については、学級担任を中心に校内体制を組織し、指導を行った。その結果、3ヶ月以上が経過した現在、事象に継続性は認められず、いじめ行為自体が止んでおり、100%解消している。2学期のいじめ認知件数21件の事象については、現在継続して指導・経過観察を行っている。	A	いじめを未然防止することが最大の課題である。いじめを絶対に許さない児童・教職員・学級・学年・学校の風土を構築すること。また、いじめを絶対に見逃さない教職員の力量を高める必要がある。	支持的で温かい風土の学級経営を基盤に教育活動を進めるとともに、一人一人の児童の言動や様子を教職員全員が鋭敏に把握し、共有して日常的かつ継続的に指導・支援を行っていくことが大切である。
授業改善	・算数科を基軸とした授業改善の推進 (「自身の考えをもち、仲間と学び合う授業が楽しい」と答える児童90% 「タブレット端末の有効活用ができた」と答える教員90% 「授業力が向上した」と答える教員90%)	児童アンケートでは、多くの児童が肯定的に回答しているが90%には届かなかった。教員は、要請訪問等、研修を通して授業の課題が明確になり、改善策を考えて実践するようになったと回答した教員は82%あった。全学級でタブレット端末を活用した授業を実践することができた。	B	コロナ禍における授業研究会のもち方等を工夫し実施することができたが、更に改善していかなければならない課題がある。また、タブレット端末を効果的に活用できたと回答した教員は66%であり、更に研修の機会を設定し、実践化していかなければならない。	積極的な授業公開を相互に行い、教材研究のプロセス(タブレット端末の有効活用)や児童の変容等を交流したり、教育局・市教育委員会の要請訪問を活用したりして、授業力の向上を図る校内研修を計画的かつ継続的に進めることが大切である。
地域連携	・「地域とともにある学校づくり」の推進 (「地域道德の取組を通して、様々な変容が見られた」と答える保護者・教職員90%)	保護者アンケートでは、80.8%の保護者が、「地域とともにある学校づくり」が実践できていると回答している。本年度は、児童の安全(見守り)を中心に熟議を重ね活動を推進した。また、各学年の授業に積極的な地域人材の活用ができた。	B	「地域とともにある学校づくり」について「よくわからない」と回答している保護者が3%ある。昨年度と比べて、その数は半減したが、保護者、地域への一層の啓発を継続して行っていく必要がある。	コロナ禍の中、児童の安全を中心にCSの活動は更に大きく前進した。今後も積極的に広報等を行っていきたい。地域道德については、地域人材の活用と教材分析を丁寧に行い、学校・家庭・地域が一体となって実践化を図りたい。
危機管理	・新型コロナウィルス感染症を想定した教育計画の立案と実践 (「学校行事等、創意工夫を行い教育活動を実施することができた」と答える保護者・教職員90%)	保護者アンケート「学校は一人一人が輝く学校行事を工夫している」の項目では、コロナ禍の中、88.4%の肯定的な回答をいただいている。常に臨機応変な対応と創意工夫を重ねる等、教職員全員の知恵と力を結集して実行することができた。	B	コロナに係る基本的な考え方が大きく変わる新年度を想定し、感染対策の継続と過去の教育活動の内容を再考し、新しい教育計画を作成する必要がある。	常にコロナに係る最新情報を把握し、南丹市教育委員会、学校医等と連携し、安心・安全な教育活動を計画し実践する。また、家庭・地域と情報の共有を確実に図ることが大切である。

※達成度は、「A・B・C・D」の4段階(A:十分な成果が見られた、B:成果が見られた、C:やや課題が見られる、D:課題が大きい)

今年度の成果

- ①各学級を基盤に、児童一人一人を大切に人権教育を実践することができた。
- ②コロナ禍の中、感染対策を徹底し、教育活動(学校行事等)を実施することができた。
- ③学校運営協議会の積極的な熟議・広報活動等を通して、児童の見守り活動を広げることができた。また、授業における地域人材の活用を全学年で行うことができた。
- ④タブレット端末を活用した授業を全学級で実践・定着させることができた。また、ICT機器を活用し、効率的に業務を推進することができた。

次年度の課題

- ①コロナ後の授業研究等のあり方を検討し、授業改善を一層推進する。
- ②GIGAスクール構想の充実を図り、授業におけるICT機器の有効活用と学校業務遂行に係る積極的な活用(効率化・省力化・集約化)を図る。
- ③学校運営協議会を基盤として、地域総がかりで児童を育成(見守り・地域道德等)する取組を更に推進する。